



2009/10 WEEKLY BULLETIN

国際ロータリー第 2790 地区第 3 分地区 B

市原ロータリークラブ会報

第 2257 回例会 2010 年 4 月 7 日(水) SAA/上条会員 会報担当/宮地会員
例会会場五井グランドホテル 市原市五井 5584-1 事務局 0438-38-3535



★点鐘 市原 RC 会長 千葉精春 ★ソング 君が代 奉仕の理想 ★4つのテスト 唱和

★ 会長挨拶 市原 RC 会長 千葉精春



4月は「雑誌月間」です。RI のホームページには「ロータリーの友」手引書というのがあり、そこには「雑誌月間」の意義・由来が書かれていました。

いわく「雑誌月間」とはRIの機関紙である「THE ROTARIAN」およびロータリー公式地域雑誌の講読と活用促進に役立つプログラムを行う月間であり、雑誌に関する会員の認識を深め、それによってロータリー情報の普及を図ることを目的とします。

国際ロータリー細則および標準ロータリークラブ定款、すなわち当クラブ定款においても同じですが、ロータリーの会員は RI の機関紙である「THE ROTARIAN」または

RI 公認の地域雑誌を講読しなければならないと規定されています。では、何故、会員はロータリーの雑誌を講読しなければならないのでしょうか。「自分の所属するクラブばかりでなく、また、自分のクラブのある地区ばかりでなく、そして、自分の国ばかりでなく、世界中のクラブの活動やロータリアンのことを知り、幅広い情報を知ることにより、幅広い奉仕活動を知ることができ、クラブとして、ロータリアンとしての見識を深められ、活動に生かされる」ということです。

わが国の RI 公式地域雑誌である「ロータリーの友」は 1953 年 1 月に創刊され 57 年が経過しました。全世界には「ロータリーの友」のような RI 公式地域雑誌が 31 誌あるそうです。

「ロータリーの友」が RI の公式雑誌に指定されたのは 1980 年 7 月ですので、1980 年 6 月までは、すなわち 30 年前までは日本の会員も「THE ROTARIAN」購読していたようです。当クラブにおいては、斎藤 PG、三木さん、山田さん、上條さん、山崎さん、佐藤 勇さんが該当されます。記憶にあるでしょうか。

1953 年の創刊から公式地域雑誌に指定される 1980 年まで何故 27 年間もかかったのか疑問に思いましたが、クラブ定款に公式地域雑誌の規定が設けられたのは 1977 年であったとのことであり、1979 年 7 月号から 1 年間の試験期間を経て公式地域雑誌に指定されたとの事です。

ご承知のように「ロータリーの友」は左からめくると横書き、右からめくると縦書きです。創刊当初は、すべて横書きでしたが、その後、俳壇、歌壇といった横書きでは都合の悪い蘭もできて縦書きのページも混ざることになりました。

また、お気づきのように、横書き部分は RI の方針や地区、クラブの活動の紹介など、ロータリーの公式の活動を紹介し、縦書き部分は会員のコミュニケーションの場、基礎知識を広めてもらう場として、会員の投稿を中心にかかげております。

また、横書き部分には RI 指定記事という記載があるものがあります。これは「THE ROTARIAN」から、毎月指定された記事を掲載しなければならないという義務に基づきます。また、毎年度 7 月号には、RI 会長の写真を載せなくてはならないなど、様々な RI の雑誌に関する規則を遵守しなければならないそうです。すなわち、「ロータリーの友」は、RI の考え方を伝えるという側面と、地域のロータリアンの考え方を伝えるというバランスを考えながら毎月編集するのに苦労するとの事です。読まない方はいないかと思いますが……

それ故、読んでください。

★ 幹事報告 幹事 泉水孝夫



1. 5月のプログラムをメールボックスに入れてありますので、ご確認ください。
2. 「チリ大地震への支援方法について」がバナー事務所よりご案内が来て居ります。これは、国際ロータリー日本事務局財団へ各クラブ単位でまとめて送金しますが、各個人寄付となります。1人 1,000 円を個人名で送金することを理事会で決定しました。クラブ負担で対応しますので、よろしくお願い致します。
3. 「第 10 回全国障害者スポーツ大会」支援チャリティーディナーの開催についてのご案内がバナー事務所より届いて居ります。日程は 5/28(金)18:00~ ホテル ザ・マンハッタン となっております。後ほど事務局よりご案内致しますので多数のご出席よろしくお願い致します。

★ 誕生祝い： 南山会員・深川会員・蔵内会員・篠田会員

★ 結婚祝い： 三木会員・南山会員・津留会員・小川会員・齊藤(榮)会員・宮地会員・平野会員

★ 委員会報告

● 国際奉仕委員会 山本委員長

クラブフォーラムのご案内 5月26日第2回クラブフォーラム夜例会を開催いたします。

皆様のご参加をお願い申し上げます。

● 親睦委員会 岡本委員長

4月17,18日新潟への親睦旅行よろしく願いいたします。

★卓話 ロータリーアンになってから・・・ 篠田会員



私が、市原ロータリークラブに入会させて頂いてから、3年9ヶ月が過ぎました。

その間、皆様の前で卓話をするのは今回で3回目になります。

1回目は入会早々の平成18年7月「新入会員卓話」です。その時は先輩会員の前で緊張しながら自己紹介を中心に話をさせていただきました。2回目は平成19年1月に「年男放談卓話」としてイノシ年に当り猪突猛進の話を同じく緊張しながら話をさせていただきました。

そして今日の卓話で3回目になります。

卓話のテーマは何にしよう？さすがに緊張はしないだろう？と思っていましたが、二度ある事は三度ある。今回も緊張しています。まとまらない話になりそうですが、よろしく願います。

今年度は千葉会長の元でプログラム委員長をしている私に、泉水幹事より貴重な例会で時間を頂きましたので「ロータリーアンになってから・・・」をテーマに話をしたいと思います。

今回の卓話に当り、自分が入会してからの期間を数えたら三年九ヶ月経ちましたが、振り返ってみると、仕事の多忙さと担当したロータリーの役職を消化することで精一杯で、じっくりとロータリー活動について理解をする余裕が無かった様に思います。とにかく例会に出席する事と、行事に参加する事を目標に、先輩会員に私のことを覚えていただくとの思いでいました。その間には、先輩会員との夜のロータリーで千葉会長をはじめ諸先輩にお世話になり、ある時は勉強会で山崎先輩にお世話になり、前年度の藤谷年度にお招きした、大山親方の相撲界についての卓話の際、親方と決まり手の実演をした事で皆さんに、顔と名前を覚えて頂いたかと思っています。

また、最近では毎年行われる地区大会や地区の研修会に参加する中で、仕事の取引先の社長とばったり会いロータリーアンと言う共通点でその後の取引が増えたり、苦手な設計事務所の先生がある時、胸にロータリーバッジを付けている事から、親近感を覚え今では関係の無い現場の事でも相談の出来る良き先輩としてつき合わせて頂ける様になりました。

そんな出会いが出来たのも「ロータリーアンになってから・・・」と、ふと思ったとき、今までの、とにかく例会に出席する事、行事に参加する事は変わらず大切にしながら、これからは更にもう一歩踏み込んで、ロータリークラブって何だろう？と考えたときに、入会時に頂いた「ロータリーQ&A」を思い出しました。

初めて読んだ時は難しい聞き慣れない言葉ばかりでしたが、読み返してみても参考になった質問とその答えがありました。

(Q&Aより引用)

「ロータリー誕生の背景を知りたい。」との質問に

「すでに先輩ロータリアンにより、いろいろ紹介されています。その中で私が一番印象に残ったのは、十六年前に銚子で行われた地区大会の佐藤千寿パスト・ガバナーによる講演記録でした。ポール・ハリスの自伝を引用して次の様に述べています。

「1905年ポール・ハリス、ロータリークラブを創立、当時のシカゴは地獄もかくやと思われる程の惨憺たる暗黒の世界でした。世の中もこれ以上悪くなりようが無いという悪徳の極みで、金儲けのためなら人殺しも朝飯前で不法侵入・不払い・計画倒産・夜逃げ・およそ考えられる限りの悪知恵競争を繰り返していました。こういう無秩序な腐敗した実業社会を規制する商業会議のような組織もありません。自衛第一が当時のシカゴに生活する者の一番大事な心構えだった」と、ハリスは自伝で書いています。

こういう状態の中で、シカゴ・ロータリークラブが生まれました。新人のよそ者で身寄りのないポール・ハリスは友人として信頼して取引のできる仲間というものを誰よりも切実に求めていたはずで。

三人の友人と語らって(今から105年前)二月二十三日第一回の会合を開いたのがロータリークラブの誕生でした。1907年、ハリスは会長となり1908年、ロータリーの骨格形成に重要な役割を果たした二人の人物を会員に迎えている。」

というのがロータリー誕生の背景とありました。残念な事に105年後の現在の日本の状況は、年末にあった派遣村に象徴される格差社会問題、景気悪化による不払い・計画倒産・など、当時のシカゴに似ている様に思いませんか。

ロータリークラブはその様な状況の中で信頼できる友人が集まり、ポール・ハリスを含め五人の友人から始まり、惨憺たる時代を乗り越え、現在では世界に広がり日本に広がり、自分がロータリアンの一員として市原ロータリークラブの会員で居る事を心強く思えました。当時のシカゴを乗り越えたのだから、今の日本の状況もロータリーで学ぶ教えの中で乗り越える事が出来るのではないかと思いました。

今までは例会出席だけではなかなか親睦を深める時間も少なく、いまいち満足感が無かったのですが、それは自分自身がこのような人生の先輩の中でロータリーを通して同じ時間を共有しているのに接する努力が足りなかったのでは？接してくれることを期待して自分から行動していなかったのでは？と思いました。

(Q&Aより引用)

「幸いに、ロータリーでは、すべての会員は同等の立場で交わることを原則としています。大企業の社長、中小企業の事業主であれ年齢の差なくフランクに交友を深めることを求めています。この考え方は大変魅力があり、他の集団では見当たらないことです。誰にでも気軽に声をかけられる。そして接することができるということは、経営者や管理者として必要な資質の一つではないかと思うのです。」

とあります。

まだまだロータリアンとしては未熟ですが、今まで以上に炉辺会談、親睦活動等に積極的に参加し、これからは「ロータリアンになってから・が・本・番」と思い、会員の皆さんとの交流の中で奉仕の心を身につけ、ロータリーについて学んでいきたいと思っています。

最後に、今月はポール・ハリスの生まれた月ということで、ポール・ハリス月間にちなんで、少々、ポール・ハリスは38歳の時に今日のロータリーという組織を創設する。職業は弁護士。1968年4月19日生。今年は生誕142年。

私と比較は出来ませんが、105年前に自分と同世代の若者が集まり始まったのが・・・と思うと、改めて感銘を受けました。

本当にまとまりませんでした。本日の卓話とさせていただきます。

ご静聴ありがとうございました。

★ニコニコ・Sorryボックス

千葉会長・泉水幹事

篠田会員 卓話ありがとうございました。

常泉会員

篠田会員 私の本をよんでいただきありがとうございます。

篠田会員

本日はまとまらない話を聞いていただきありがとうございました。

また、仕事の都合とはいえ欠席が多いことを合わせて申し訳ございません。

★ 出席報告

前々回 77.8% 本日出席 34名 欠席 11名 本日出席率 75.6%